

あいの知恵袋 2025・9月

発行 阿井地区地域づくり委員会 くらし支援部会

他地域に先立ってはじまった完全給食



閉校記念に寄せて「みんなで創る学校給食」回顧録

この夏、閉校記念事業として「空飛ぶ給食」の会が実施されました。たくさんのボランティアの協力を得て4日間で400名のお客様を迎え、大変好評を得ることができました。ちなみに給食の内容は牛乳とパン（ソフト麺）、地元の野菜とクジラ肉を用いた副食にスープ、青りんごゼリーという懐かしいものでした。

ほぼ30年にわたった阿井独自の学校給食はいつどのようにして始まったのでしょうか？

年表（裏）にあるように、副食での給食提供は昭和37年12月に始まりしました。その3年ぐらい前からP T A関係者の間で「この阿井の地で仁多最初の給食をやろうじゃないか」との話が交わされるようになったといいます。昭和35年郡のP T A研修会の分科会討議のテーマとして、阿井小学校P T Aが「給食実施について」を提案したのがスタートでした。当時P T A会長は桜井尚氏、副会長は井上博氏でした。その頃のいきさつについて井上博氏のお話を紹介します。

「教育長さんをはじめ町当局・議会へお願いしましたが、『やるならミルク給食から』との返事でした。『ミルク給食は給食には入らない』と反論し、あくまで副食給食にこだわりました。その当時大原郡では既に完全給食が実施されていました。従ってミルクから始めたのでは先進地に追い付くには随分と時間がかかると危機感を持ちました。もう一つ副食にこだわったことは、昼食になると弁当を蓋や教科書で隠し、他人に見られないようにして食べる子がいる。家庭の事情によって厳しい所はつけものとお飯だけ、あるいは梅干ししか入っていない。一方相当ボリュームのある豊かなおかずが入っている子もいる。だからお互いに恥ずかしいから隠しあって食べるということがずっと続いていた。子どもは親の状況によって差別を受けるものであってはいけない。みんなが同じものを平等に食べる。同じものをおおっぴらに食べることが大事だと思いました。昭和36年当初から本格的に準備が始まりました。P T A役員・評議員と日夜協議を重ねました。先ず施設はどうするのか、そのための財源はどうするのかということをはじめ難問山積でした。財源については、あれこれ考え交渉し、川東水路を活用した『小水力発電所の収益積立金』を活用させてもらうことができました。また、阿井だけ給食ができるのは不公平だとの批判もありましたが、『阿井小学校がモデルとなり仁多町全体に給食が広がることにつながればいい。』と議会の了承も取り付け、町費の助成を受けることもできました。こうして、昭和37年12月5日最初の副食給食の日を迎えることができました。この日から次のステップ『週六日の完全給食実施』について歩みが始まりました。施設の拡大整備、給食費の負担等について、P T A役員での精力的な協議をもとに、すべての会員の理解を得ることが大きな課題でした。幸いにも給食に対する理解は進み、完全給食への道は平坦ではなかったものの順調に推移しました。

昭和38年10月には主食をパンとする完全給食実施にこぎつけました。給食運営のために給食会も発足させ、効率的な給食実施に向けた体制づくりにも取り組みました。

（「給食を閉じる会」のあいさつ等から）



先見の明があった阿井の先人たちに感謝・感謝で

タイトル「給食空に行く」で全国紹介された中学校への給食運搬について、その経緯はどのようなものだったのでしょうか？



このことについては、当時中学校P T A会長だった岩田一郎氏のお話を紹介します。

「昭和39年P T A会長に就任とともに、『中学校での給食実施について』をP T Aの主要事業とし、自治会ごとの意向のとりまとめや施設設備、給食提供の方法、財源等の検討を始めました。まずはP T A会員の同意を得ること。自治会ごとに意見を聞いていったのですが、様々な意見が出てなかなかまとまらずにぶんと時間がかかりました。給食実施方法についての協議も難航しました。何回も夜遅くまで話し合いました。最終的に小学校との共同給食として施設を拡充し、中学校への運搬は架線で行うこととしました。費用の大部分は町費負担として議会で予算を可決していただきました。P T A総会で最終承認を経て工事がスタートしました。大変だったのは架線工事。支柱は鉄道レールの払い下げを受けて溶接後、数か所に建設。基礎部分の工事はP T Aの奉仕作業としました。ところが大きな問題が……。架線が道路や電線・電話線の上を越すとき危険防止のため保護網を設置することが義務付けられていることが判明しました。道路上は仕方ないにしても電線等の上2カ所の建設場所が田んぼの上であることや工事費が莫大なものであることから、架線による方法は至難であるとの結論で頓挫しました。この時浮かんできたのが電線電話線の方を架線の上を通すということでした。勝手なお願いとは承知していましたが、関係機関等に陳情しました。何本かの電柱を高い柱に立替えねばなりませんでしたから手間と費用がかかる作業でした。松江や木次の中電・電電公社に何度も足を運びました。時間はかかりましたが、学校給食に対する理解とP T Aの熱意によって、電線等の引き上げが実現しました。お陰で給食運搬架線も完成しました。いよいよ給食を密閉容器に入れ、別注の布製バスケットに入れて、次々架線にかけてスイッチを押しました。児童生徒はもちろん多くの人々が見守るなか、空中ケーブルで運ばれて無事に中学校到着。みんなが歓声を上げて小中共同の学校給食完成を祝いました。その様子がテレビやラジオ・新聞で紹介され、テレビで映し出された「給食空に行く」のタイトルは、『阿井』の名前を全国へ届けることになりました。（「みんなで創る学校給食」表彰記念誌等から）……文責 福田充雄

開校を前に蘇えった懐かしの給食

阿井小学校開校記念事業
地元野菜と鮭がつかないだ
学びと懐かしさの一品

空飛ぶ
給食

あーいーね！
お盆に集まろう

10日(日)・11日(月)
8月
14日(木)・15日(金)

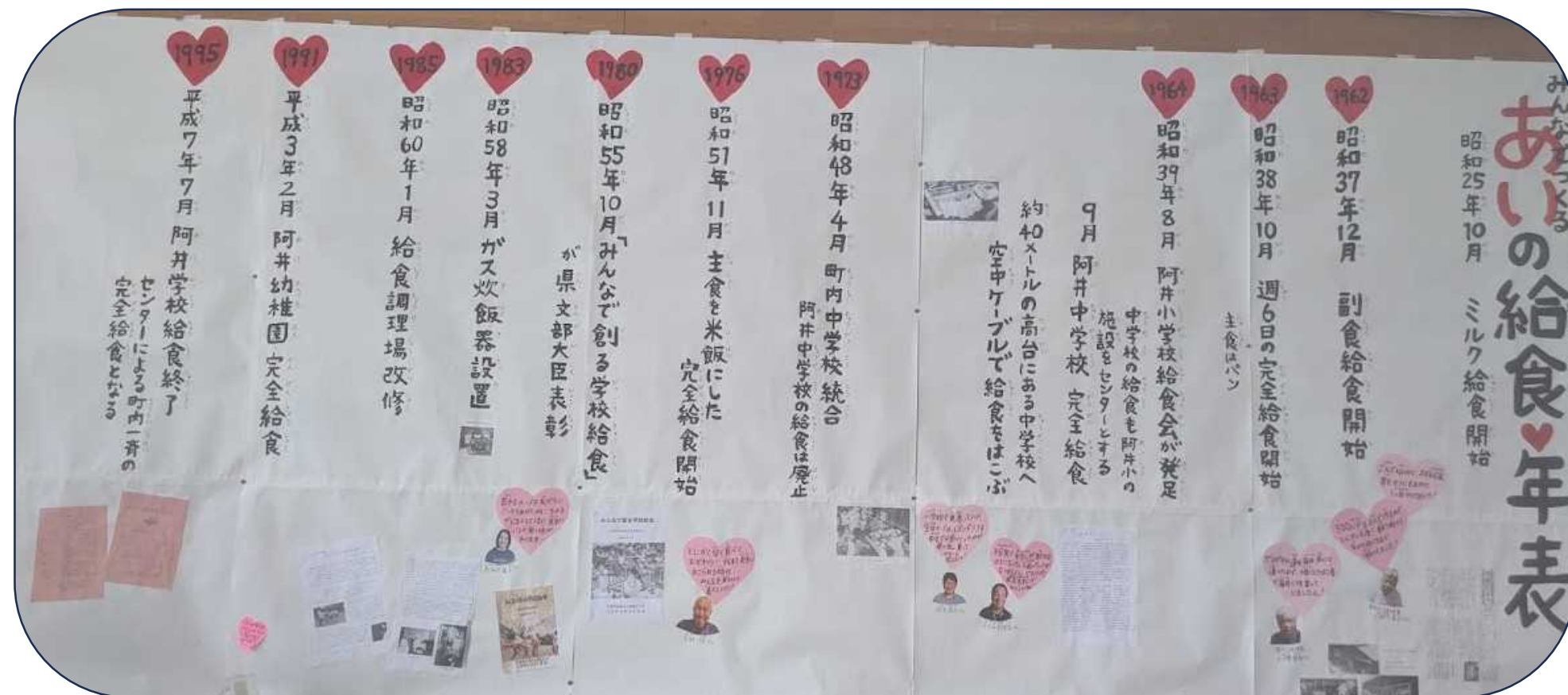
給食 11:30-13:30 1日限定50食
阿井小cafe 10:00-16:00
場所：阿井小ランチルーム

大好評のレトロ喫茶
阿井小cafeでOpen
ハム・ウー・チーズ・イン・パーム
特製あいしょう饅頭

懐かしの写真展

LINE公式アカウント
かただいま阿井小開設

主催：阿井小学校開校事業実行委員会
事務局：阿井公民館 TEL.0854-56-0001
協力：奥出雲町学校給食会



懐かしい
卒業写真

会場風景

ミニ同窓会

懐かしいテレビ放映



スタッフの皆さん・ボランティアの皆さんありがとうございました